

## 「平時」のデータの重要性

三浦 一浩（地域生活研究所）

今回の『都内基礎自治体データブック』には、「ICUを持つ病院数」「感染症病床数」「保健師数」という3種類のデータを新たに盛り込んだ。統計データを収集することの重要な眼目のひとつに経年的な変化を見ることが挙げられるが、その点を重視し『都内基礎自治体データブック』では掲載するデータ項目の頻繁な入れ替えや加除は基本的に行わず、出来る限り同一のデータを長く掲載し続ける方針を採ってきた。にもかかわらず、今回新たな項目を追加したのは、言うまでもなく新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大に伴い、その対応の態勢を確認するためである。準備段階ではその他にも様々な項目が候補として挙げたが、自治体別の数字が公開されているものであることやインターネット上に数字が公開されており、容易にデータの収集が可能なるものなどなどを考慮し、3項目を追加することとなった。

これらの項目の掲載にあたり、注意したい点がある。ひとつは、当然のことであるが、これらの項目は、それだけで感染症対策の態勢を評価できるものではないという点である。『都内基礎自治体データブック』にはこれまで病院数や病床数、医師数などのデータを掲載してきており、今年度はそれに3つのデータを追加したが、これらのデータだけでは感染症対策の全貌が見えてくるわけではない。現在進行形の事象であることも踏まえれば、今後、さまざまなデータや知見の蓄積と、より詳細な検証を通じて、感染症対策の取り組み態勢を整えていくことになるであろう。ここに掲載しているデータは部分的なものにとどまり、感染症対策のいわば「姿勢」を示すものだということはあるが、それ以上のものではないということは注意しておきたい。

第2により重要な点として、今回掲載したのは元となるデータの関係上、2018年度、もしくは2017年度のデータとなっていることに注意いただきたい。私たちの社会が感染症について全く注意を払っていなかった時期のデータを掲載することにどういった意味があるのか、訝しむ向きもあるかもしれないが、むしろそういったいわば「平時」のデータこそが重要なのではないだろうか。それは、今回の新型コロナウイルス感染症の感染拡大のような深刻な危機への対応を迫られた際の、私たちの社会の基礎的な対応力を示すものといえるからである。その他の種類のデータも含め、2019年以前のデータを、今後明らかになるであろう2020年度や2021年度の数値と比べることによって、新型コロナウイルス感染症が私たちの社会に与えた影響や、それに対して私たちが取った対応がどのようなものであったかが見えてくる。そういった今後のデータと比較を行うという意味でも、2019年以前のデータは重要な意味を持つと考えられる。

次ページの表は今回取り上げた項目のうち「ICUを持つ病院数」「感染症病床数」について現在インターネット上で入手できる最も古い数値との比較を行ったものである。このデータだけでなんらかの傾向を読み取ることは難しいが、少なくとも、この10年の間に大きな変動は起こっていないということができよう。この間、少なくとも医療体制の拡充が社会の中で議論される機会は多くなかったし、医療部門に社会的な関心が払われることも少なかったのではないだろうか。今後、コロナ禍への対応が進むなかで、こういった数値がどのように変わり、中長期的にはどのような水準が維持されるのが望ましいのか、社会の中で議論が進んで行くことを期待したい。

	ICU を持つ病院数		感染症病床数	
	2017 年	2011 年	2018 年	2009 年
千代田区	3	3		
中央区	2	2		
港区	7	7		
新宿区	7	7	4	4
文京区	4	5	30	10
台東区				
墨田区	1	2	10	10
江東区	2	1		
品川区	3	3		
目黒区	3	4		
大田区	5	5	20	20
世田谷区	3	3	10	10
渋谷区	2	2		
中野区	2	1		
杉並区	2	1		
豊島区	1	2		
北区	2	1		
荒川区	1	1		
板橋区	5	5	20	20
練馬区	2	2		
足立区	2	2		
葛飾区	3	3	5	5
江戸川区	1	2		
区部計	63	64	99	79
都計	79	88	145	125

八王子市	4	3	8	8
立川市	2	2	6	6
武蔵野市	1	2	20	20
三鷹市	1	1		
青梅市	1	1	4	4
府中市	2	5		
昭島市				
調布市				
町田市	1	1		
小金井市				
小平市	1	1	6	6
日野市				
東村山市		2		
国分寺市				
国立市				
福生市				
狛江市		1		
東大和市	1	1		
清瀬市	1	1		
東久留米市				
武蔵村山市				
多摩市	1	2		
稲城市				
羽村市				
あきる野市				
西東京市		1		
市部計	16	24	44	44

出典：東京都福祉保健局『東京都の医療施設』各年度